

Maruni 自転車パンク修理マニュアル

パンク修理をする前に!!

① 虫ゴムのチェック (右図1参照)

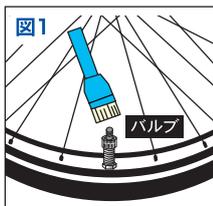
まず虫ゴムのチェックをしましょう。タイヤに空気を入れ、バルブの先に石鹸水をかける。泡が出てくる場合、虫ゴムが傷んでいるので交換する。

● 虫ゴムの交換のしかた (右図2参照)

- ① 袋ナットをはずしてブランジャーをバルブから取り出す。
- ② 虫ゴムをはずして、新しい虫ゴムを装着する。

■ポイント

虫ゴムを水でぬらすと装着しやすくなります。



■バルブの構造



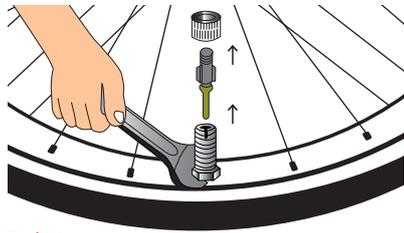
② 虫ゴムに問題がなければ、パンク修理に必要な下記のを準備しましょう。



それではパンク修理を始めましょう!!

手順1 バルブを分解する

袋ナットをはずし、ブランジャーを抜く。スプナまたはペンチでリムナットをはずす。

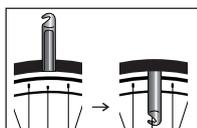


■ポイント

自転車をひっくり返すと、これからの作業がしやすくなります。(特に前輪)

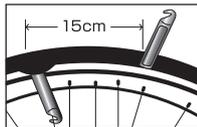
手順2 タイヤをはずす

① タイヤレバーを、タイヤとリムの間に差し込み、テコの要領でタイヤを手前におこして、タイヤレバーのフックをスポークにひっかける。



△注意
タイヤレバーを差し込むとき、チューブをささないよう注意しましょう。

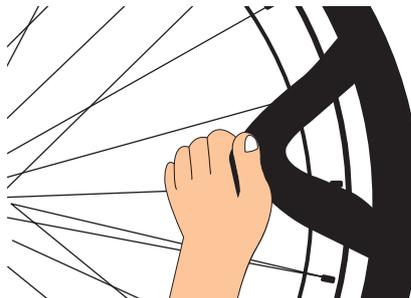
② 2本目のタイヤレバーを約15cmはなして差し込み、①と同じ作業をする。2本のレバーの間を少しずつはなして、この作業を繰り返すとタイヤがはずれる。



■ポイント
ビードワックスをご利用いただくと、楽に作業できます。ある程度はすれば、タイヤレバーをリムにそって回すことにより一気にタイヤが外れます。

手順3 チューブを取り出す

タイヤとリムのあいだからチューブをひっぱり出す。



■ポイント

バルブの反対側から引き出すと、楽に取り出せます。⇒手順4は裏へ

手順4 パンク箇所をさがす

- ① バルブにブランジャーと袋ナットを付けて空気を入れる。
- ② チューブを水につけてパンク箇所をさがす。泡が出てくるところがそうす。一ヶ所とは限らないので、一周すべて確認する。



■ポイント

パンク箇所にサインペンで目印をつけておきましょう。

手順5 サンドペーパーでこする

- ① 空気をぬく。
- ② 乾いた雑巾でパンク箇所の水をふく。
- ③ サンドペーパーで、パンクの穴の周囲を、貼り付けるパッチより広めに粗面にする。



手順6 ゴムりを塗る

サンドペーパーでこすった部分にゴムりを塗る。塗った後よく乾かして下さい。(3~5分)



■ポイント

指で薄く、ムラなく塗らしましょう。

手順7 パッチを貼る

パッチの透明フィルムの端をつまみ、アルミ箔をはがす。パッチの中央に傷穴があたるようにチューブに貼り付け、タイヤレバーを利用して圧着する。その後、透明フィルムを取り去る。



△注意

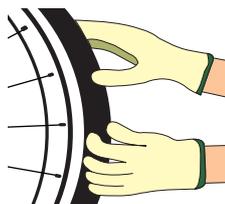
アルミ箔側が接着面です。指で触らないよう注意しましょう。

手順8 修理のチェックをする

もう一度、袋ナットとブランジャーを装着して空気を入れ、修理箇所を水に浸して空気漏れがないかチェックする。

手順9 タイヤのチェックをする

釘などの異物が残っていないか、タイヤの内側をよく確認する。



△注意

ガラスや釘が刺さっていると危険です。軍手をはめて作業しましょう。

手順10 チューブを元に戻す

- ① 袋ナットとブランジャーをはずして空気を抜く。
- ② まず、バルブをリムのバルブ穴に通し、リムナットを軽く締める。チューブをタイヤの中に入れる。



■ポイント

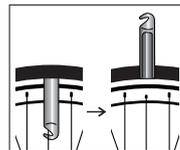
タイヤのフチを手前にひっぱっておくとチューブが入れやすくなります。

△注意

チューブがねじれたり、折れ曲がった状態で無理に押し込まないようにしましょう。

手順11 タイヤを元に戻す

- ① 手で出来るところまでタイヤをリムにはめ込んでゆく。
- ② 手で入らなくなれば、タイヤレバーを使って押し込むようにする。(外した時と逆の要領で)



手順12 空気を入れる

- ① リムナットをはずし、バルブを2~3回押し込む。
- ② リムナットを締め、ブランジャー、袋ナットを装着して空気を入れる。

マルニ工業株式会社
http://www.maruni-ind.co.jp/
大阪生野区舍利寺3-11-1
TEL.06-6716-4171(代)
FAX.06-6715-1700

パンク修理
手順動画

※機種により閲覧できない場合があります。

